

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



緑小だより 1月号

令和6年1月9日（火）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校
校長 菅野 康一

【雲は龍に従い、風は虎に従う】

新年、あけましておめでとうございます。本年度もよろしくお願ひいたします。今年度の干支は『辰』。十二支の動物の中では唯一の架空の生き物ですが、非常に縁起の良い神聖な生き物と言われ、古くから中国では権力の象徴とされており、「正義」を表します。そこから、辰にまつわる言葉やことわざがたくさん生まれた中で、『雲は龍に従い、風は虎に従う（くもはりゅうにしたがい、かぜはとらにしたがう）』というものがあります。

これは、龍は雲を従えることによって勢いを増し、虎は風を従えることによって早さと威を増す。物事はそれぞれ相似たものが一緒になったり、一緒になろうとして、お互いが適度に距離をとっていこうとするとうまくいくものだという意味のたとえです。

そのことから、本当に心が通じ合うこととは、すぐ側にいるということではなく、どんなに離れていようと、心はいつでも離れずに側にあるということでしょう。目に見える相手との距離だけではなく、目に見えない心の距離も大切にしたいものです。

さて、新聞に『日本の数学 日常から遠い?』というタイトルで、各国の

15歳（日本では高1）を対象とする学習到達度調査（PISA）の結果をもとにした記事が載っていました。本校は「身近なこと・ものから始まる算数の学び」を新たなテーマに設定して、算数科の研究に取り組んでおり、以下のとらえをしています。

- ①「日常生活」という言葉の捉えが一人ひとり異なっている⇒子どもたちの身の回り＝身近なこと・ものとししました。
- ②問題を解決し、そこで得たものを身近な世界に生かすことまでを含めて、「学び」としました。

そこで興味深く記事を読んでみると、PISAのアンケートで「先生は私たちに日常生活の問題を数学でどう解決できるか考えるように言っている」と尋ねたところ、指導があったと答えた日本の生徒はとても少ないそうです。実生活とからめる指導は生徒の関心を引きやすく数学が苦手な子の意欲を引き出す効果もあるとされ、実社会の問題を扱う学びを取り入れていかないと数学嫌いはなくなるかもしれないとも言われています。今年度も答えは同じでも、それぞれ根拠が違い、子どもたちで話し合える、目に見えない心の距離を大切にしていきたいです！